

「かわばた」という地名は川のほとりという意味で「川端」と書くのが普通である。これを「川端」と書くのは大変に珍しい。藩制時代には「川端」と書いていたようですが、当時の住人はほとんど武士であった。しかし、街づくりが進むにつれて「川端」は町人の街となり、川端は川の東側に移り住んだ。このため川の西岸沿いにある「川端」は武士から見えて川の反対側に位置するようになった。こんなことから「川反」の字が当たられるようになったとか。

町人の町・川反が生まれ変わった転機となつたのは明治十九年の大火(俵屋火事)。この火事で焼失した芸者屋・料理店が川反四丁目に次々と移転を始めたのだ。これが歓楽街・川反の始まりである。



J【正一位稻荷大明神】

かつては川反の芸者さんや、置屋、料亭のおかみさん達がお参りし、現在でも信仰が厚い神社です。高橋萬年の絵馬、大山重肇の書が納められています。宇迦御魂大神、佐田彦子大神、大宮能売大神が祀られています。

M【祇園小路】

昭和34(1959)年、「中華園」を経営していた人が、有限会社「祇園街」を創設、徐々に店舗を拡張し、昭和37(1962)年、京都の祇園の華やかさを願って命名された「祇園街」が完成しました。最盛期には約60店舗を数える大規模な小路となり、祇園小路と呼ばれました。

N【川反觀音】

戊辰戦争に先立ち、慶應4年7月4日にこの地で殉難した仙台藩士の供養と、川反に地をこよなく愛した先人たちの慰靈として、平成12年7月4日に建立されました。

P【北方教育社発祥の地】

1929年(昭和4年)成田忠久によりこの地に北方教育社が生まれ、青年教師と共に生活綴方の運動に励んだ。子供たちに現実を直視させ、たくましい生活意欲を培わせることを根底に置いたこの運動は北方教育として東北一円に広がった。戦後かつての同人たちの手で再び組織され県内の教育有志に引き継がれている。

Q【新政酒造】

嘉永5年(1852)創業の全国でも有数の酒蔵。酒銘は明治維新政府が施政の大綱とした「新政厚徳」に由来しています。秋田独自の醸造技術から昭和5年に考案された新酒酵母「協会6号」全国の酒造家に頒布されています。

●古き良き建物の風情

川反には、古き良き時代の名残の建物がいくつあります。4丁目料亭濱乃家は一部改築しましたが大正時代の数寄屋造り、北州飯店は近代和風建築の走り、津ねやと蘇州(5丁目)は昭和初期の和風建築、川反5丁目から横町に向かう突き当たりに立つのは、木造2階建ての江戸中(えどちゅう)昭和6年創業の老舗居酒屋、初代から約88年の間、継ぎ足された焼き鳥とおでんのタレは奥深い。また、街中アートポイント60選に入る老舗レストラン A-1(エーワン)の店舗入り口にはこの店を訪れた当時の藤田嗣治や平野政吉の写真が飾ってある。

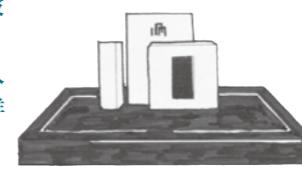
O【感恩講発祥之地碑】

「感恩講」とは、1829(文政12年)に創られた、日本初の「民営による窮民・孤児救済機関」。現代風に言えばNPO(民間非営利組織)のような組織である。この組織を創り上げたのが、那波祐生(なばゆうせい)でした。那波が自ら献金を行い、有力町民に働きかけて志の賛同を得、さらに一般町民からも加入者が増え、構成員191名・献金は金2000両となった。その金でようやく財政基盤が出来上がり、1829(文政12年)年、藩ではこの事業団体に「感恩講」という名称を与え、民間主導の画期的な救済事業が誕生。

1833(天保4年)に東北地方はかつてない大飢饉に見舞われ、餓死や疫病死があいつだが、発足間もない感恩講が、これらの人々に米を支給し、病人への薬代や医療費などを与え、孤児たちには保育の世話をした。

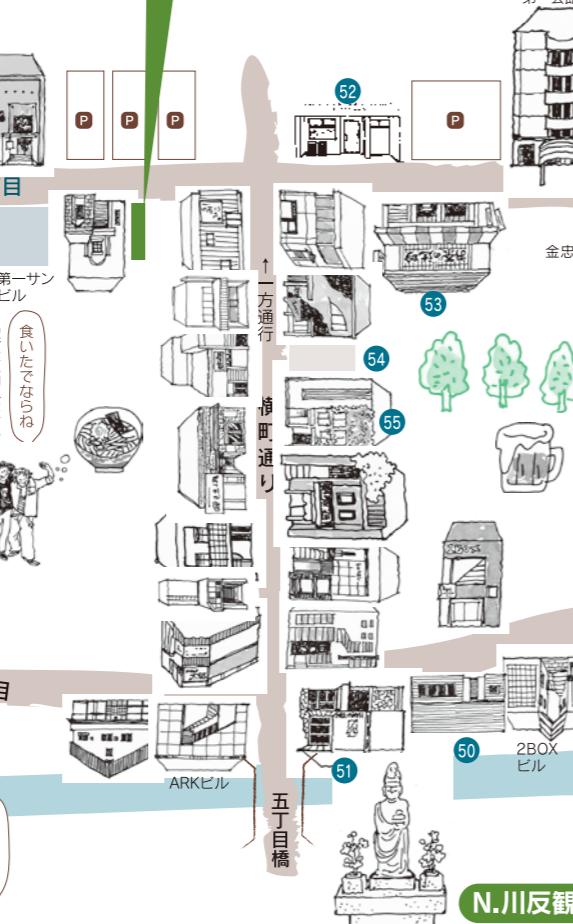
那波の精神は、藩政期を経て明治・大正・昭和・平成と脈々と受けつがれ、現在秋田市内に「感恩講児童保育院」として残り、代々那波家が関わっている。

昭和51年、社会福祉法人「感恩講」が「感恩講発祥之地」碑を建立した。



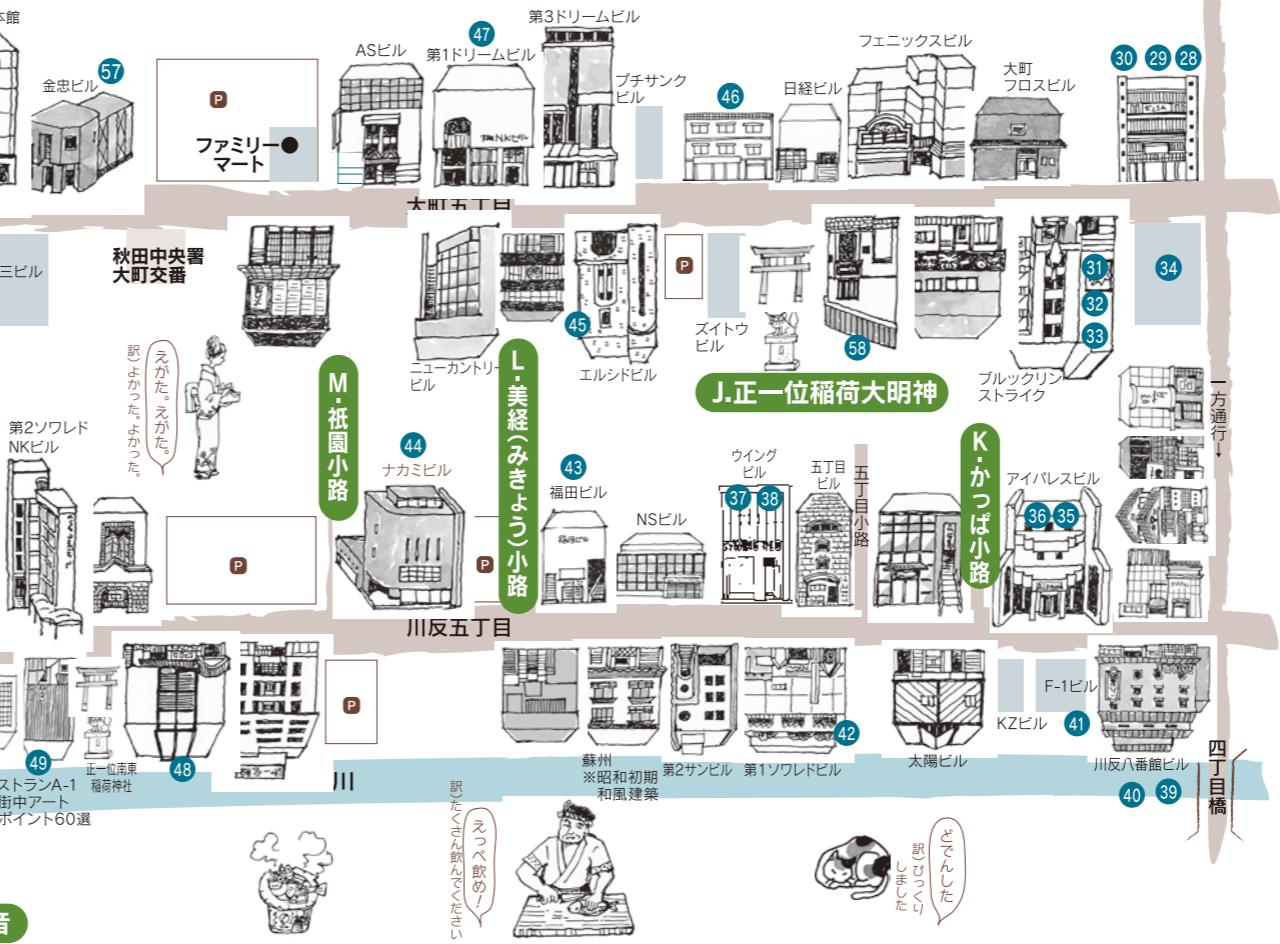
- 56 秋田おでん さけ富
- 57 燻製バル TEXES
- 58 Bar USHIO
- 59 ANDY'S COCKTAIL AND WHISKY HOUSE
- 60 株式会社 辻吟
- 61 ラーメンショップ味軒
- 62 Jiji
- 63 ANDY'S COCKTAIL AND WHISKY HOUSE
- 64 國酒と料理 墨流し
- 65 A-1
- 66 肉バル NORICHANG
- 67 ダイニングバー・イゾラ
- 68 BARいだりゅういち
- 69 百舌鳥
- 70 薄利多壳半兵衛川反四丁目橋店
- 71 竹嶋
- 72 MixBar BigTree
- 73 あづばれ寿司大町店
- 74 鮨バー 金龜
- 75 ラウンジOL俱楽部
- 76 ブルックリンストライク
- 77 美酒王国 SAKE-NAVI
- 78 ゼロクラブ
- 79 ラララ
- 80 BBQ Plus+
- 81 いいもんや酉二九
- 82 赤から 大町店
- 83 だんまや水産秋田大町店
- 84 秋田屋台村 たばこ座横丁
- 85 なかや

P.北方教育社発祥の地



●川反の料理人たち

今でこそ秋田の郷土料理は、きりたんぽと塩魚汁とすぐに答えるが返ってくるが、元はといえば家庭料理。鍋を囲み、銘酒を酌み交わす風情は、県外人にも郷愁をそそるだろう、その秋田の郷土料理を全国に知らしめたのは、川反の料理人たちであると言つても過言ではない。川反には戦後多くの割烹、料亭が点在していました。あきたくらぶ(明治12年)、いくよ(大正13年創業)、濱乃家(大正8年創業)、川寿(昭和3年創業)、銀鍋(昭和9年創業)、かめ清(明治19年創業)など、現在は濱乃家とかめ清のみとなった。



川反5丁目

- 56 秋田おでん さけ富
- 57 燻製バル TEXES
- 58 Bar USHIO
- 59 ANDY'S COCKTAIL AND WHISKY HOUSE
- 60 株式会社 辻吟
- 61 ラーメンショップ味軒
- 62 Jiji
- 63 ANDY'S COCKTAIL AND WHISKY HOUSE
- 64 國酒と料理 墨流し
- 65 A-1
- 66 肉バル NORICHANG
- 67 ダイニングバー・イゾラ
- 68 BARいだりゅういち
- 69 百舌鳥
- 70 薄利多壳半兵衛川反四丁目橋店
- 71 竹嶋
- 72 MixBar BigTree
- 73 あづばれ寿司大町店
- 74 鮨バー 金龜
- 75 ラウンジOL俱楽部
- 76 ブルックリンストライク
- 77 美酒王国 SAKE-NAVI
- 78 ゼロクラブ
- 79 ラララ
- 80 BBQ Plus+
- 81 いいもんや酉二九
- 82 赤から 大町店
- 83 だんまや水産秋田大町店
- 84 秋田屋台村 たばこ座横丁
- 85 なかや

もともと秋田美人という言葉は、明治の終わりから昭和の初めにかけて秋田を訪れた多くの文人達が、川反の芸者衆「川反芸者」を指して使つたのが始まりとされている。文豪・谷崎潤一郎は明治末に敦いだ「れも恋の奴」の恍惚(うつとり)と物に憧る表情などと川反の女を描写している。谷崎潤一郎は、何人の文筆家が川反風俗を書いたことで、川反芸者つまり秋田美人は全国的に知られるようになった。こうして全国に名をとどろかせた秋田美人という言葉だが、やがて時代とともに一般的な表現となり、今では秋田女性の代名詞になつている。

秋田美人の特徴は、背が高くやや面長で目は細く切れ長、口は小さく鼻筋が通つていてこと。そしてなりきめの細かい色白の肌があり有名である。

明治末・大正から昭和初期にかけて、戦争特需などを背景として歌舞街・川反は栄華を誇つた。そこに咲いた花が川反芸者である。川反芸者は器量よしで、踊りも唄も上手。県外から訪れた客によってこの評判は全国にとどろいた。しかし、川反芸者は踊りと唄がうまかっただけではない。本県婦人運動の先駆者・和崎ハルが大正十三年に開設した「芸妓学校」。ここで毎週日曜日、約五十人の芸者が国語、書道などのほか希望者は英語まで学んだ。このため川反芸者の名が高まつたのだろう。昭和初期には百五十人もいる川反芸者が、現在ではわずか数人だけ。川反の華やかさはまだ健在だ。

明治末・大正から昭和初期にかけて、戦争特需などを背景として歌舞街・川反は栄華を誇つた。そこに咲いた花が川反芸者である。川反芸者は器量よしで、踊りも唄も上手。県外から訪れた客によってこの評判は全国にとどろいた。しかし、川反芸者は踊りと唄がうまかっただけではない。本県婦人運動の先駆者・和崎ハルが大正十三年に開設した「芸妓学校」。ここで毎週日曜日、約五十人の芸者が国語、書道などのほか希望者は英語まで学んだ。このため川反芸者の名が高まつたのだろう。昭和初期には百五十人もいる川反芸者が、現在ではわずか数人だけ。川反の華やかさはまだ健在だ。

